

机間巡視、机間指導それとも机間支援・机間援助？

机間巡視・・・多くの子どもの机の回りをめぐって、「広く状況や実態を調査する行為」です。

机間指導・・・基本的に机の回りをめぐって、「個別に指導する行為」です。

机間支援・机間援助・・・机間指導と同じニュアンスです。

つまり机間巡視と机間指導の違いは、子どもへの指導が入るか入らないかという部分に違いがあるのです。ただ、考え方は様々でこうだという定義はありません。机間指導の中に机間巡視の役割を含むと考える場合も多いです。ただ、子どもたちの学びの状況把握をするだけに机間を歩く場合もあるので、そこで意見が分かれるのかもしれませんが。

大切なことは、個別指導することと状況把握（褒めるを含む）の2点があるということです。

個別指導するポイント

○全体を見る場合

・全員を見るが、軽重をつける

全員のノート類を見るのは大切ですが、均等の時間で見るものではありません。

全員をきっちり見ようとすると、学習が成り立たなくなります。

・見る観点を絞る、教師力のレベルが上がってきたら観点を増やす

なんでもかんでも全部を見ようとすると、かえって漠然としか見られなくなります。絞って。

「全員、理由を書いているか」「全員、立式できているか」etc.

観点の内容を高度なものにする

「どんな内容を書く傾向にあるのか」「いくつ書けているか」etc.

・1時間に1回は机間指導する

やらせっぱなしではなく、評価評定をします。

質問に対応、つまずきに助言、賞揚、方向性を示唆 etc.

・赤鉛筆指導

子どもとのふれあいを大切にするため背中越しに行います。

その上を子どもがなぞったときに赤鉛筆の線が消えるように薄く書きます。

・ノートを見せる子どもにする

見られないと机間指導が効率的に行えません。学年当初に、間違いは誰もがするもの、

間違えのおかげでクラスみんなの理解が深まるなどと話しましょう。

・指名の順序を考えるための情報源に

授業の組み立てを考慮して指名するための状況・実態の把握です。

・子どもの変化に敏感に

かすかな成長を見逃さず、言葉、笑顔、視線、肩を軽くたたくなど様々な方法でほめます。

○個人を見る場合

・コースを決めておく

周りを見てチェックしながら個別指導に入りたい子どもに向かっていきます。

・有限な時間の中で行う

指導は、5～6人が限度です。授業力が上がればもっと見られるのかもしれませんが。



最近個別最適な学びとの兼ね合いで、個別指導の面が大きく意識されることがありますが、授業構成の面もおさなりにしてよいということはありません。学習課題を把握しているかの確認、一人ひとりの学習や作業の進み具合の確認と評価など、学習課題に対する子どもの考えや活動を把握して次の展開に生かすことができると、1時間の授業の流し方や深い学びにつながる授業づくりができるようになります。全体での指導が確かなものになると個別指導に費やす時間も少なく済むようになります。いかんせん、個別指導の時間が長いと学級全体がざわざわします。

まなび野洲チャレンジ！ 32



今回はこの問題です。正しい答えの番号はどれでしょう。
答えは、最下段に載せています。

「湖国の感動 未来へつなぐ わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ 2025 第79回国民スポーツ大会、第24回全国障害者スポーツ大会」が近づいてきました。国スポは9月28日（日）～10月8日（水）、障スポが10月25日（土）～27日（月）の期間で開催されます。

実施競技は、正式競技、特別競技（高校野球）、公開競技、デモンストレーションスポーツに分かれています。

野洲市では、正式競技で成年女子の「バスケットボール」（国スポ）、全種別の「卓球」（国スポ・障スポ）が野洲市総合体育館で、全種別の「ラグビーフットボール」（国スポ）が希望が丘文化公園で行われます。

公開競技では、期間前の8月30日（土）・31日（日）に「武術太極拳」が野洲市総合体育館で実施されました。

デモンストレーションスポーツは、「スポーツ鬼ごっこ」が6月1日（日）に野洲川河川公園で、琵琶湖の地の利を生かした「マリンスポーツフェスティバル」が7月21日（月）にマイアミ浜で、期間前に実施されました。

それでは、ここで、問題です。

「マリンスポーツフェスティバル」では、人気のOPヨット、カヌー、ウインドサーフィン、シーホッパー、SUPが、初心者でも自由に気軽に体験できました。

その中のSUP（サップ）とはスタンドアップパドルボードの略で、サーフボードより少し大きなボードの上に立ち、パドルを漕いで水面を進んでいく、〇〇発祥の人気上昇中のウォータースポーツアクティビティです。

〇〇に入る言葉は、何番でしょう。



SUP（スタンドアップパドルボード）

- ①ハワイ ②タヒチ ③オーストラリア ④ニュージーランド

おすすめの1冊

本当は大切
だけど、
誰も教えて
くれない
授業力向上
42のこと

大前 暁政

『本当は大切だけど、誰も教えてくれない授業力向上42のこと』
大前暁政 著 出版社 明治図書

十分な準備をしても、授業がうまくいかないことはあります。そんなとき、授業者は自分の授業こそ反省すべきです。

失敗と向き合うのはだれしも嫌なものです。しかし、失敗を分析すれば、多くの学びを得ることができます。子どもの事実から学ぶことで、よい授業とは何かが見えてきます。そして、それが授業力向上につながるのです。

本書は、この点を踏まえ、各項目の冒頭で授業の失敗例を示しています。続いて、失敗の分析を行っていく中で授業力向上の方途を示しています。日々の授業をどう反省し、どう学べばよいのか。本書で示した「学び続ける」姿勢を身につけることで、授業力向上が実現していくはず。ハウツーより深いことを知りたい人におすすめの本です。

